

3. 立地適正化計画の基本的な方針

3-1. まちづくりの方針

山田町総合計画（第9次長期計画）では、まちづくりの目標として「個性豊かに ひとが輝き まちが潤う 山田町」を掲げており、立地適正化計画におけるまちづくりの目標もこれに準ずるものとします。この目標を実現することを前提としたうえで、山田町の持つ特性や課題を踏まえ、まちづくりの方針及びそれを実現するためのストーリーは、以下のとおりとします。

ターゲット(計画により目指すもの)

【目指すべき都市像】

個性豊かに ひとが輝き まちが潤う 山田町

【まちづくりの方針】

復興事業で集約された都市機能施設の有効活用に加え

老朽化した既存ストックの効率的な集約・再編と

市街地居住を望む住民の郊外部から市街地部への適切な誘導

【目指すイメージ】

- ・震災復興事業で都市機能を集約した中心商業・業務拠点（陸中山田駅周辺）をまちの中心とし、中心市街地活性化に必要な都市機能を誘導しつつも、地区生活拠点となる大沢、柳沢北浜、織笠、船越の各市街地に必要な都市機能を誘導します。
- ・中心エリアと地区生活拠点を公共交通で結び、商業、医療、福祉など様々な生活サービスの利用を可能とすることで、高齢者、子どもや障がい者など自動車を自由に利用できない方も徒歩や公共交通を利用しながら暮らし続けられるまちづくりに取り組みます。
- ・震災により被災を免れた公共施設には老朽化した施設も多いことから、中心市街地・業務拠点周辺への効率的な集約・再編を検討することにより、さらなる持続可能でコンパクトな市街地の形成を目指します。
- ・また、生活利便性が高まった市街地での居住を希望する郊外部の住民に対しては、郊外部から市街地部への適切な居住の誘導を行います。
- ・これにより、急速な人口減少に歯止めをかけ、持続可能でにぎわいのあるコンパクトなまちづくりを実現します。

ストーリー(実現に向けたシナリオ)

【集める】 安全で暮らしやすい場所に都市機能とそれを支える居住人口を集める

- ・陸中山田駅周辺エリア及び県立山田病院周辺エリアにおける高次都市機能の集積
- ・大沢、柳沢北浜、織笠、船越の市街地における身近な生活サービス機能の集積
- ・各市街地における一定の居住人口の確保

【繋ぐ】 拠点内を徒歩で、拠点間を公共交通で繋ぐ

- ・各拠点間を繋ぐ鉄道やバスを活用した公共交通ネットワークの充実
- ・公共交通人口カバー率の向上
- ・公共交通不便地域の解消

【導く】 集積と連携から都市の魅力と魅力を拠点へ導く

- ・中心市街地や生活拠点への生活サービス施設の立地誘導
- ・多様なニーズに対応した住環境の形成
- ・魅力的な店舗や人と人が繋がる交流の場の創出

【稼ぐ】 商業・工業の集積発展の推進

- ・産業の計画的な立地促進及び雇用の確保
- ・商業・工業の集積発展の推進
- ・民間活力を活用した持続的・安定的な行政運営の推進

3-2. 目指すべき将来都市構造

山田町立地適正化計画で目指すべき都市の骨格構造は、以下の都市計画マスタープランの都市構造を基本とします。

表 拠点及び連携軸の配置・形成方針

区分		拠点の配置・形成方針
拠点	行政・文化拠点	<ul style="list-style-type: none"> ●町役場、保健センター、中央公民館・中央コミュニティセンター周辺 →町全体で利用する各種行政機能が集積する町の中心的な拠点とします。 →現在の主要公共施設に加えて県立病院跡地（八幡町）の活用も検討し、行政サービス、文化・交流、医療・福祉等の都市機能の集積を図ります。
	公共防災拠点	<ul style="list-style-type: none"> ●県立山田病院、山田消防署、山田交番周辺 →被災時に町の災害応急活動の中核となる防災拠点とするとともに、平時においては町内の救急・医療活動の中核となる拠点とします。 →迅速かつ効果的に応急・復旧を実施するための活動拠点として機能確保を図ります。
	中心商業・業務拠点	<ul style="list-style-type: none"> ●陸中山田駅から国道45号周辺 →鉄道と国道によるアクセス性を活かし、町内外から買物客や観光客を呼び込む町の中心的な商業・業務拠点とします。 →商業・業務施設、飲食・観光施設、その他各種サービス施設の集積により、町の中心市街地活性化を牽引する空間づくりを図ります。
	地区生活拠点	<ul style="list-style-type: none"> ●大沢地区、柳沢北浜地区、織笠地区、船越地区 →中心商業・業務拠点と連携しつつ、各地区の生活を支える都市機能を集積する拠点とします。 →地域の特性に応じて、商業・業務施設や公共施設等の集約を図ります。
	観光拠点	<ul style="list-style-type: none"> ●道の駅やまだ「おいすた」、浦の浜周辺、オランダ島など →観光を通じて町内の交流・滞在人口増大を図るための拠点とします。 →各地区又は施設の特性に応じた観光レクリエーション機能の向上を図ります。
	新産業拠点	<ul style="list-style-type: none"> ●山田IC周辺 →三陸沿岸道路による広域的なアクセス性と本町の基幹産業である水産業や製造加工業の集積を活かし、新たな産業施設の受け皿となる拠点を形成します。
連携軸	広域連携軸	<ul style="list-style-type: none"> ●三陸沿岸道路 →周辺都市間との観光・交流、防災・医療、行政サービスなど多様な広域連携を創出する連携軸とします。
	生活連携軸	<ul style="list-style-type: none"> ●細浦・柳沢線、重茂半島線、浦の浜・田の浜線等 →各地区の拠点間を結ぶ連携軸とし、安全で利便性の高いネットワークとして維持・充実を図ります。
	産業連携軸	<ul style="list-style-type: none"> ●国道45号等 →各漁港や産業系エリア、新産業拠点を結ぶ連携軸とし、この軸上を中心として産業集積の促進を図ります。

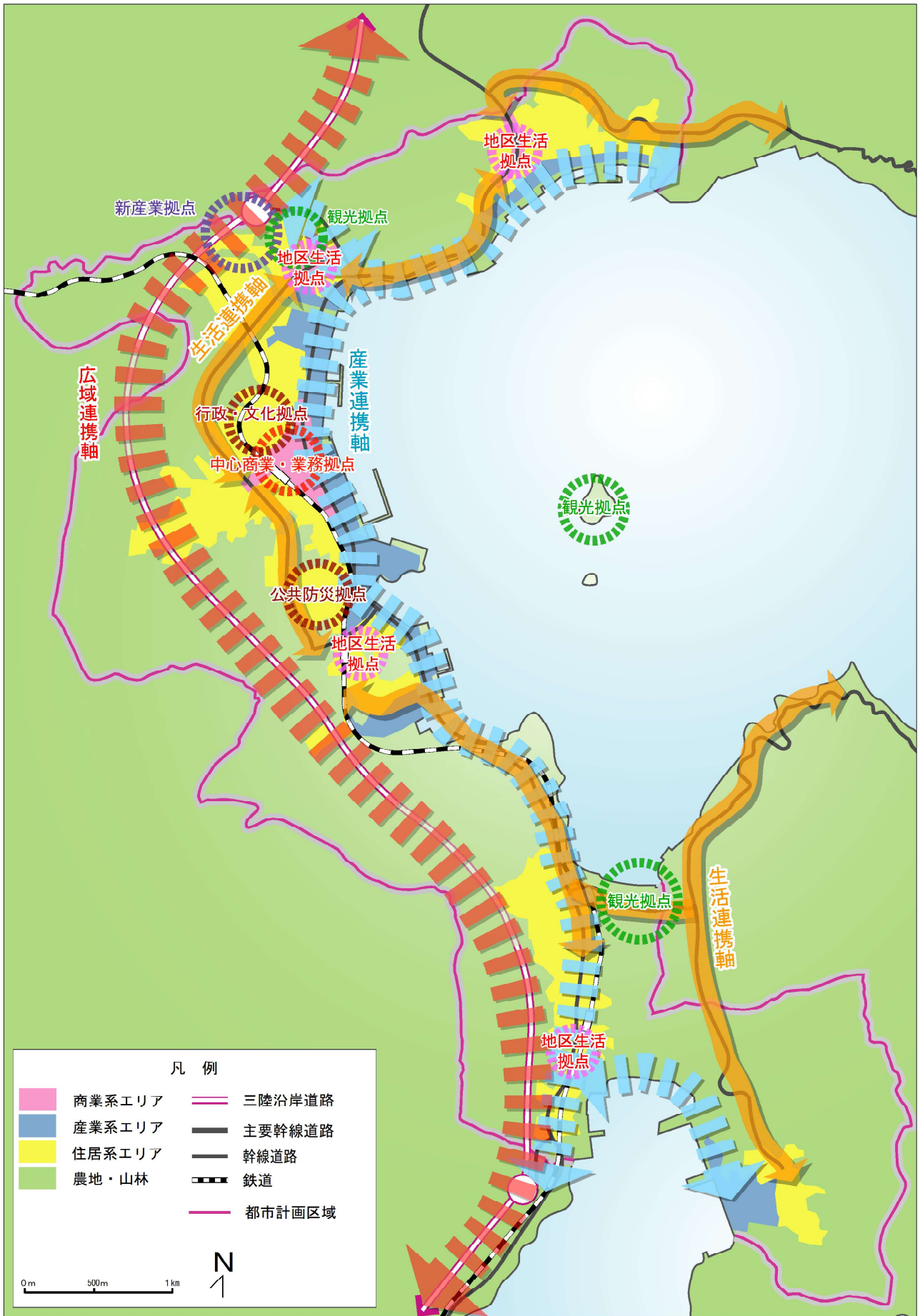


図 将来都市構造図